

9月彼岸出荷向け白色小ギク新品種候補「ひたち29号」（仮称）の育成

[要約]

小ギク「ひたち29号」は季咲きで8月下旬から9月下旬に採花できる白色系統で、9月彼岸出荷向けに適する。市場性評価は普通であるが、草丈が伸びやすく白さび病発生が少なく、近年の夏季高温でも需要期出荷が可能なため生産者評価が高い。

茨城県農業総合センター生物工学研究所 " 園芸研究所	令和7年度	成 果 区 分	普 及
-------------------------------	-------	------------	-----

1. 背景・ねらい

茨城県の小ギクは、県内の切り花品目では産出額が第1位、全国にも栽培面積が第2位、出荷量が第4位（いずれも令和元年）のシェアを占める重要な花き品目である。生産現場からは、安定して物日出荷でき、白さび病の発生が少ない、近年の気候変動に対応できる品種の育成が求められており、これらの要望を満たす県オリジナル品種を育成する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 令和元年に「わかさ」に「15c29」を交雑して得られた実生集団から選抜した系統である。
- 2) 花色はRHSカラーチャートNN155Dの白色である（図1、表1）。
- 3) 季咲き栽培（5月下旬定植）での採花時期は8月下旬から9月下旬であり、9月彼岸出荷に適する（表1）。
- 4) 「常陸オータムパール」と比較して、切花長と切花重は大きく、頂花はやや下がり、白さび病の発生は同等に少ない（表1）。茎が細めですっきりした草姿である（データ略）。また、電照処理による9月需要期への採花時期の調節が可能である（表1）。
- 5) 市場性評価では、フラワーフォーメーション（FF）において「やや悪い」から「普通」の評価であるもの、総合評価においては全員が「普通」と評価している（図2）。また、近年は夏季高温により9月彼岸の小ギク出荷量が減少していることから、需要期出荷が可能な品種の要望が高い（データ略）。
- 6) 現地適応性試験では、フラワーフォーメーションが段咲きであるが、切花長が大きく、需要期出荷が可能な点が高く評価され、生産者9名中7名が導入を希望している（表2）。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) ほ場の条件によって下葉枯れが発生することがある。
- 2) 令和8年に品種登録出願予定である。
- 3) 種苗は、（公社）茨城県農林振興公社において令和8年秋以降に配布される予定である。
- 4) 普及対象：県内の小ギク主要産地

4. 具体的データ



図1 小ギク「ひたち29号」

表1 小ギク「ひたち29号」特性調査結果 (R5~R7)

調査年度	系統/品種名	花色 (RHS) ¹⁾	開花時期 (始~終)	切花長 (cm)	切花重 (g/本)	節数 (節/本)	FF ²⁾	白さび病発生程度 ³⁾
R5	ひたち29号	—	8/30~9/10	98.0	64.5	41.6	2.8	0
	常陸オータムパール	—	9/4~9/14	66.9	54.0	50.1	2.2	0
R6	ひたち29号	—	8/22~9/1	92.3	86.0	37.2	2.8	0
	常陸オータムパール	—	9/1~9/7	72.3	63.4	48.7	2.2	0
R7	ひたち29号	—	9/8~9/27	115.8	86.2	48.2	2.8	0
	常陸オータムパール	—	9/5~9/22	83.8	59.0	54.9	2.2	0
平均	ひたち29号	白(NN155D)	8/30~9/12	102.0	78.9	42.3	2.8	0
	常陸オータムパール	白(NN155D)	9/3~9/14	74.3	58.8	51.2	2.2	0
R6 (電照)	ひたち29号	—	9/13~9/17	120.3	85.9	60.6	2.0	0
	常陸オータムパール	—	9/14~9/19	96.5	86.6	66.0	2.0	0

※切り花特性調査結果は園芸研究所、花色及び白さび病発生程度のみ生物工学研究所の結果
※5月下旬定植

1) RHS カラーチャートによる判定

2) FF: フラワーフォーメーション (右図)

3) 白さび病発生程度は0~5 (0: 発病なし、

1: 高品質で出荷可能な程度(秀品)、

2: 中程度の品質で出荷可能な程度(優品)、

3: 低品質だが出荷可能な程度(良品)、4: 商品性なし(出荷不可)、

5: 上位葉から下位葉にかけて発病(出荷不可))の6段階で評価

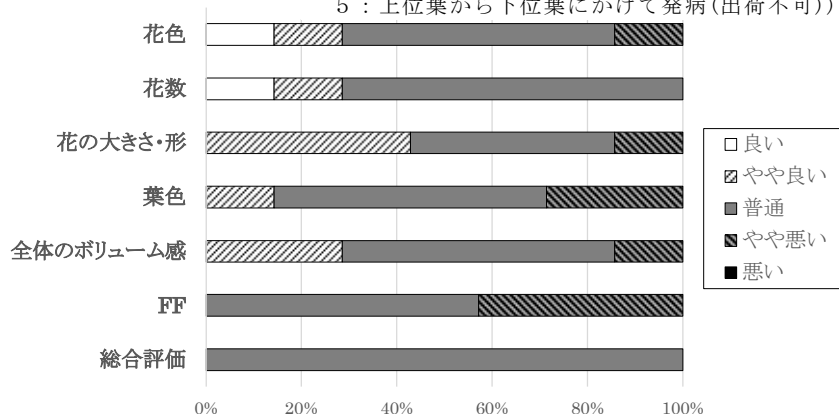
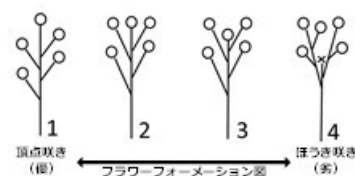


図2 小ギク「ひたち29号」市場性評価の結果 (R7)

※調査対象: 市場3社4名、仲卸3名 評価方法: 絶対評価法で判定

表2 小ギク「ひたち29号」現地適応性試験における生産者評価 (R7)

	極良	良	普通	劣	極劣		無	少	普通	多	甚
作りやすさ	1	2	4	2		病害虫発生	2	2	5		
切花長	3	4	2			下葉枯れ発生	3	3	2	1	
茎の太さ	1	4	3	1		下枝発生	2	4	3		
花色	1	8				花卉焼け発生	8	1			
花質(形・大小)		8		1							
茎葉色		3	5	1							
ボリューム感		4	1	4							
							頂点 中間 ¹⁾ 段				
							フォーメーション	1	2	6	
								有	無		
総合評価	1	3	4	1		導入希望	7	2			

※回答者は生産者9名

1) 頂点咲ではないが、等級に影響しない程度

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

1) 新品種育成普及促進事業・令和2年度~令和7年度・生物工学研究所果樹・花き育種研究室

2) 新品種育成普及促進事業・令和6年度~7年度・園芸研究所花き研究室